



新刊クリップ

◎著者インタビュー

秋元久雄 『高学歴大工集団』

目指すは大工の復権



大工のアウトソーシングが常識の建設業界にあって、400人以上いる従業員のうち約170人が大工や職人。新入社員はほぼ全員が大卒

で、東大や早稲田といった有名大学出身者もいる。そんな面白い建設会社が静岡にある。

「目指すは大工の地位向上です」

今年で61歳になる平成建設社長の秋元久雄氏はそう強調した。質問に小気味よく回答するその姿からは、溢れんばかりのエネルギーが感じられる。

秋元氏によれば、多くの大工はゼネコンやハウスメーカーの下請けとして、マニュアル化された仕事をこなす「作業員」になってしまっている。

「すぐできる作業ばかりが増えた結果、仕事のやりがい奪われている」

しかも、安い報酬のせいで弟子を雇う余裕もなく、技能継承の機会も失われている。大工の高齢化が進み、このままでは技術力のある大工が消えてしまうとの危機感は一業界全体にあるが、収益を優先するあまりこの問題は放置されているのが実情だという。

そこで、秋元氏は大工を社員として雇用すること考えた。コスト増にはなるが、下請けではなく元請になることで会社として大工を養える環境を整えた。社内には技能が蓄積されるようになった。

内製化と同時に、大工が足場の組み立てや重機の操作も行う「多能工化」を進めた結果、作業効率も向上したという。

「大工が加工技能を身につけただけではただの下請けになってしまう。(近代的な)構造・設備の理解、現代のニーズを捉える力、文化的素養、経済合理性が必要だ」

秋元氏が目指す大工養成のためには、一般教養や物事を深く考える素地が必要となるという。新規採用者が大卒者中心になるのは自然な流れだったのだろう。同社の取り組みが「大工の復権」につながる日は来るだろうか。

(あきもと・ひさお)株式会社平成建設社長。デベロッパー、ハウスメーカー、ゼネコンに在籍後、平成建設を設立。

高学歴 大工集団

秋元久雄

1989年の創業以来成長を続ける平成建設。大工や職人を社員にする同社のユニークな経営手法、社長の経営理念、そして日本の建築業界全体の問題点が描かれる。

(PHP研究所 1470円)